

よえもん

2015年4月

第 24 号

シリーズ
よえもん

大野りょうさ
を教える

藤樹先生が教えた人のなかに、大洲からきた大野了佐という若者がいました。医者になるために、大洲にいたころから、藤樹先生に教えてもらっていました。了佐は、もの覚えはしても苦手でしたが、人が一回ですること、何十回もくりがえしてやりぬこうとする、強い心を持っていました。そこで藤樹先生は、了佐のためにわかりやすい医学書「捷徑医塾」を書き進めながら教えました。3年あまりをかけて、ようやく学び終えたとき、了佐は感謝の気持ちで涙があふれました。了佐は大洲で心温かな医者として、働き続けたのです。了佐が大洲へ帰ってから、藤樹先生は門人たちに話しました。「私がどんなに熱心に教えても、了佐にがんばる気持ちがなかったら一人前の医者にはなれなかったでしょう。おまえさんたちは、たくさんの才能を持っているから、気持ちがあればどんなこともできるはずだ。」先生の言葉は、みんなの心に響かずにひびきました。毎年夏休みに記念館では、この大野了佐にならって、「了佐てらこせ小学校」を開校しています。

??



お知らせ

4月から記念館に新しい職員が
赴任しました。濱口尚代
よろしくお願ひします。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL・FAX (0740)-32-0330



書・判田瑞穂さん
出典・中江藤樹のお歌

今月のことば

何事も皆あそびなる
世の中を
苦と見る人ぞ
はかなき。

「何事もすべて遊びであるような世の中を 苦しいと思う人こそ はかなく、残念である。」という意味です。私たちは、いつの間にか、世間の習いに染まり、好き嫌いや欲念などに「ねじがため、すくめられている」と藤樹先生は考えます。「すくみ」とは心がちごこまることです。世の中の何事も皆遊びだと考えることで、その「すくみ」をゆるめ、広々とした心で物事に接するとうまくゆく。これこそが藤樹先生の追求した、正しく、かつ、楽である心、すなわち「真楽」なのです。

第27回 小企画展
～江戸の陽明学～

中江藤樹から吉田松陰へ

日本で最初に陽明学を学んだ中江藤樹から幕末の吉田松陰に至る陽明学の系譜を企画開催いたします。ぜひ、見に来て下さい!



2015.4.1 ▶ 2015.9.30